

## 編集 後記

このたび、編集委員長を拝命しました。岡崎前委員長の元で6年間編集委員をさせていただいた経験を生かし、会員の皆さんに親しみやすく、学問的に見てもの高い学会誌をめざしていきたいと考えております。

本誌の伝統として、第一の特長というところ、やはり教育的査読という点があげられると思います。本学会は大学・研究所に所属しておられる会員ばかりではなく、行政など公衆衛生の現場で実践しておられる会員が多数おられます。学会誌というどうしても学問的なレベルを保つということを第一に考えてしまいますが、公衆衛生学においては、現場の実践の活動報告や、実践活動を通しての政策提言は不可欠であり、そのような投稿はぜひ増やしていきたいと思っております。ただ、学会誌であるからには学術論文のお作法があり、(特に原著論文については)それを守っていただく必要があります。岡崎先生は常に教育的査読を口にしておられ、いきなり不採用という判定はできるだけ避け、査読回数を増やし査読委員の御負担を増やすことになりましたが、なるべく懇切丁寧に査読意見を書いていただくという方針をとっておられました。この点は将来とも本誌の基本方針として守ってきたいと思っております。

他方、会員の方からよくうかがうのは、査読が遅いのではないかという御意見です。本誌では、初回投稿時も再投稿時も、前述の教育的査読をするという点を重視して、採否の最終判断は(編集委員長や編集委員といった個人ではなく)委員会で合議しておこなうこととしております。しかし、委員会は月一回の開催ですから、どうしても時間がかかってしまいます。これについては、査読委員の選出をメーリングリストを使いなるべく早くおこなう、査読委員と事務局とのやりとりをすべてメールでおこなう、などの改善策が考えられ、現在、検討中です。他にも、英文論文号(11月号)の編集にかかわる問題、研究倫理についての本誌としての立場表明などが今後、議論されることになっており、良き伝統を守りつつ、本誌をより良い学会誌にしていく所存です。会員の皆さまからのますますの投稿増と、査読にあたられる先生方のますますの御尽力をお願いいたします。

(甲斐一郎)

## 2号予告(第53巻・第2号)

### 論 壇

エンパワーメント理論からみたプライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの戦略分析に関する考察……………湯浅資之, 他

### 原 著

自立高齢者の介護保険認定に関連する身体・心理的要因

3年4か月間の追跡研究から……………藤原佳典, 他  
ソーシャルサポート・ネットワークと在宅高齢者の検診受診行動の関連性  
社会的背景の異なる三地域の比較  
……………三觜 雄, 他

### 公衆衛生活動報告

予防接種の接種月齢, 接種順と接種完了率

……………加藤昌弘, 他  
地域高齢者とともに転倒予防体操をつくる活動の展開……………植木章三, 他  
適正減量を目指した糖尿病予防の個別健康教育における強力介入群と通常介入群の比較  
……………栗山進一, 他

## 第9回日本地域看護学会学術集会のご案内

日 時：2006年7月29日(土)・7月30日(日)

会 場：国立保健医療科学院(埼玉県和光市南2-3-6)

内 容：会長講演, 理事会セミナー, 教育講演, 一般演題(口演・ポスター発表), ワークショップ, 市民公開講座

参加費：会員(2006年5月31日以前の申し込み：6,000円, 2006年6月1日以降の申し込み：8,000円)

非学会員(2006年5月31日以前の申し込み：8,000円, 2006年6月1日以降の申し込み：9,000円)

学生(学部生のみ：4,000円)

参加費振り込み先：第9回日本地域看護学会学術集会 郵便講座番号00170-6-279486

参加申し込み：事前参加費での申し込み期限 2006年5月31日(水)

振り込み期限 2006年6月30日(金)

問い合わせ先：国立保健医療科学院 公衆衛生看護部

第9回日本地域看護学会学術集会事務局

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6

FAX：048-469-7683 \*お問い合わせはファクシミリにてお願いいたします。